

「地域アプローチ」による 少子化対策の取組報告

茨城県 常陸大宮市
(令和6年3月)



常陸大宮市の概要

令和6年度に
市制施行20周年を迎えます



項目	概要
人口	37,119人 (令和6年3月1日常住人口) →2050年:20,590人(市人口ビジョン推計値)
面積	348.45km ² (県内2番目の規模)
合計特殊出生率	1.34 (平成25~29年) ※全国: 1.30、茨城県: 1.30(令和3年) 内閣官房「地域少子化・働き方指標(第5版)」
有配偶率	57.6 (令和2年) ※全国: 55.6、茨城県: 57.9 令和2年国勢調査 人口等基本集計
有配偶出生率	59.1 (令和2年) ※全国: 70.3、茨城県: 66.9 内閣官房「地域少子化・働き方指標(第5版)」

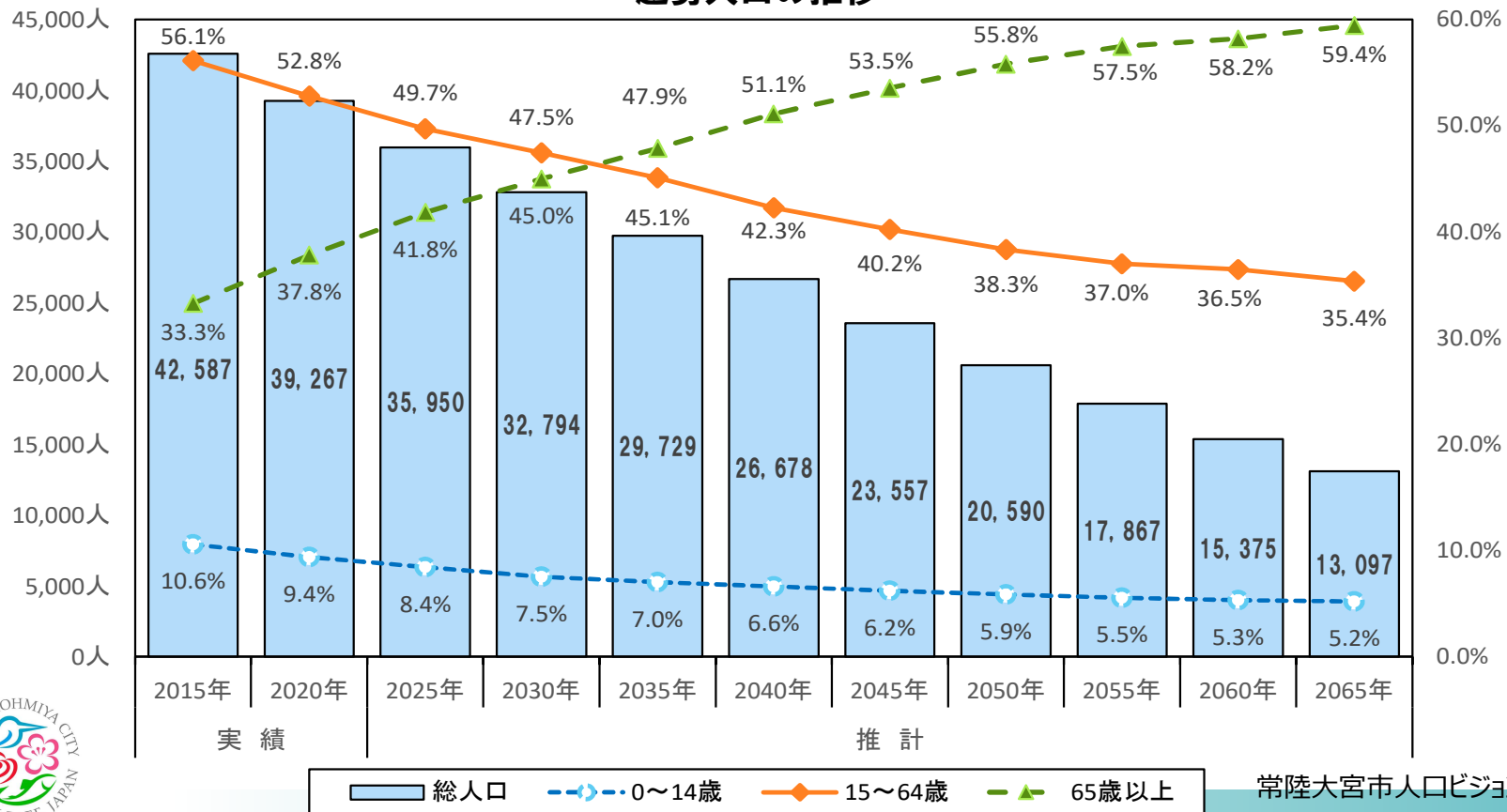
- ・平成16年に大宮町、山方町、美和村、緒川村、御前山村の5町村合併により誕生
- ・茨城県の北西部に位置し、一部過疎地域に指定
- ・森林原野面積が約60%、農用地が約17%を占める
- ・市内には水戸北部中核工業団地と宮の郷工業団地がある

常陸大宮市における課題及び目標

(1) 現状と趨勢人口の推計

- ◆ 1985年の50,226人から、2020年には39,267人に減少（35年間で約11,000人減）
- ◆ 推計結果では2040年に高齢化率が50%を越え、2055年には総人口が2万人を下回る
- ◆ 社会動態：男女ともに若い世代の転出超過が顕著（ライフイベントによるもの）
- ◆ 自然動態：出生数は減少傾向（2019年以降の出生数は160人前後で推移）
婚姻数も低下しており、婚姻率は国や県の平均を下回る状況

趨勢人口の推移



常陸大宮市における課題及び目標

(2) 課題・目標 (常陸大宮市人口ビジョン【改訂版】)

人口問題に対する課題	目標 (将来の方向性)
社会減の継続 <ul style="list-style-type: none">・女性を中心とした転出超過・ライフイベントに伴う転出・定住意向を持たない市民の増加	<ul style="list-style-type: none">◆ 進学・就職等で転出する(した)人材のUターン促進◆ 結婚・子育て世代の移住・定住促進◆ 合計特殊出生率の向上と出生数減少の抑制
自然減の加速 <ul style="list-style-type: none">・出生数の減少・婚姻率の低下・人口減少対策としての出産・子育て支援の必要性	

【目標を達成するため・・・】

人口減少対策について、**部局横断的な検討・実施体制を構築し、全庁的な連携を強化する**ことで、効果的な施策の展開につなげる！

STEP 1 部局横断的な検討体制の構築

(1) プロジェクトチームの構成状況

- ◆ 部局横断的な検討体制として、「**未来をつくる政策Labo**」を立ち上げ
- ◆ 人口減少・少子化対策について全庁的な意識の統一を図り、より実現・実効性の高い政策立案につなげることを目指した

<p>政策Laboメンバー</p> <p>人口減少・少子化対策について検討する (プロジェクトメンバー)</p> <p>係長級以下職員（自薦）</p>	<p>キックオフミーティング</p> <p>全庁的に人口減少・少子化対策 に取り組むための合意形成を図る</p> <p>理事・各部長</p>
<p>審査会</p> <p>政策Laboメンバーが検討した人口減少・ 少子化対策を審査する</p> <p>市長を含む市幹部職員等</p>	<p>事務局</p> <p>「未来をつくる政策Labo」の実施に 必要な調整等を担当する</p> <p>企画政策課</p>

STEP 1 部局横断的な検討体制の構築

(1) プロジェクトチームの構成状況

政策Laboメンバー					
チーム	所属	役職	チーム	所属	役職
A	総務課	主任	C	総務課	主任
	地域創生課	主任		危機管理課	主任
	地域創生課	主幹		危機管理課	主事
	商工観光課	係長		社会福祉課	主幹
B	文化スポーツ課	係長	D	山方支所	係長
	会計課	係長		医療保険課	主幹
	企画政策課	係長		こども課	主幹
	総務課	係長		こども課	主幹
					こども課

※チームまたは個人での応募があり、4チームを構成
 ※特定の分野にとどまらず、幅広い部署から参加があった

STEP 1 部局横断的な検討体制の構築

(2) 既存事業の棚卸し（総合計画 重点事業）

項目		現在の取組	担当課	
自然増減	有配偶率	結婚 元気ひたちおおみや結婚応援事業	定住推進課	
		出産	出産祝い金支給事業	こども課
	不妊治療・不育症検査助成事業		健康推進課	
	マタニティサポート事業		健康推進課	
	有配偶出生率	子育て	子育て支援サイト「ハッピー子育て」運営事業	こども課
			子育て短期支援事業	こども課
			赤ちゃんの駅設置推進事業	こども課
			乳児育児用品購入助成事業	こども課
			保育料等負担軽減事業	こども課
			放課後児童健全育成事業	こども課
			こどもセンター運営事業	こども課
			保育対策総合支援事業	こども課
			医療福祉費支給事業	医療保険課
			ショッピングセンターピサー○子ども広場整備事業	商工観光課
	子育て世帯向け住宅整備事業	都市計画課		

項目		現在の取組	担当課
社会増減（転出入）	若年層	移住・定住促進事業	定住推進課
		木造住宅建設助成事業	農林振興課
		常陸大宮駅周辺整備事業	駅周辺整備推進課
		起業サポート事業	商工観光課
		常陸大宮駅周辺活性化支援事業	商工観光課
		企業誘致推進事業	商工観光課
		御前山ダム周辺活性化事業	地域創生課
		パークアルカディアブラッシュアップ推進事業	商工観光課
		地域振興事業（山方・美和・緒川・御前山）	各支所
		観光誘客促進事業	商工観光課
		御前山・那珂川観光強化事業	商工観光課
		観光振興事業	商工観光課
		自転車活用推進事業	地域創生課
	情報収集発信事業	企画政策課	
	子育て世帯	出産祝い金支給事業（再掲）	こども課
		不妊治療・不育症検査助成事業（再掲）	健康推進課
		乳児育児用品購入助成事業（再掲）	こども課
		子育て世帯向け住宅整備事業（再掲）	都市計画課

※今回は重点事業の棚卸しを行ったが、特に出生率の向上につながる子育て支援について多くの事業に取り組んでいることがわかった。

STEP 1 部局横断的な検討体制の構築

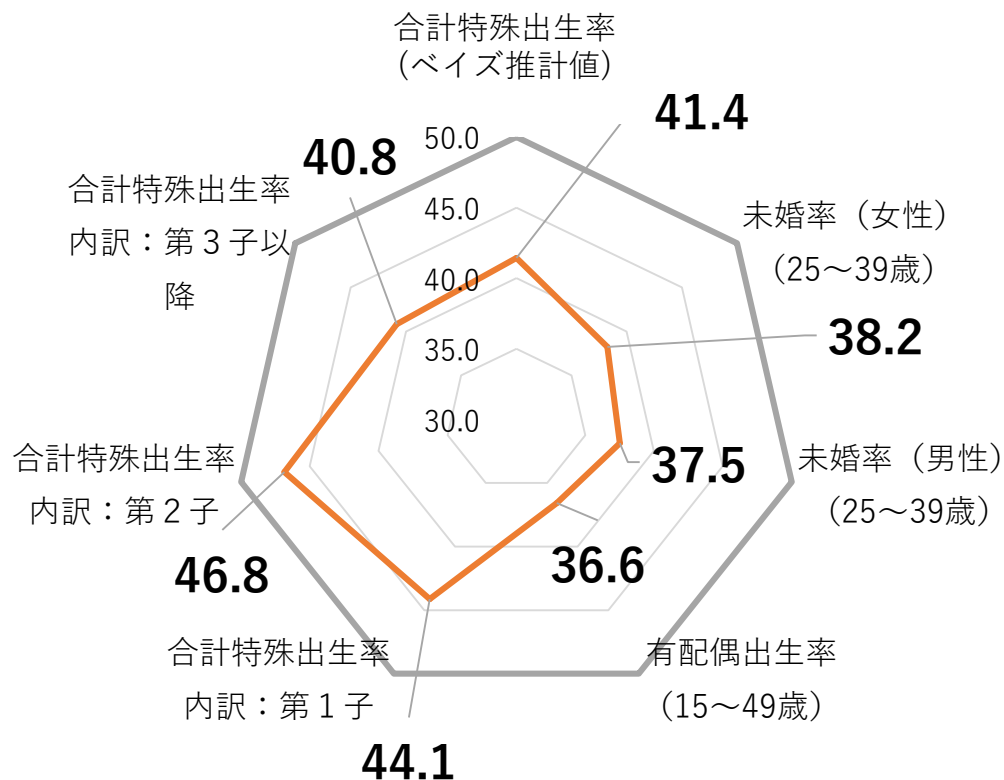
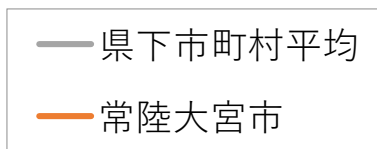
(3) 実施計画の策定

時期	2023年8月	9月	10月	11月
到達目標 (マイルストーン)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 検討体制の立ち上げ ◎ プロジェクトメンバーの募集 ◎ 少子化の現状等を取りまとめる（～8月） 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ プロジェクトメンバー確定 ◎ ワークショップの実施（客観的指標分析） 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ワークショップの実施（事業アイデアの検討） ◎ 主観調査の準備・調整 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ワークショップの実施（事業アイデアの検討） ◎ 主観調査実施
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ キックオフミーティングにて、プロジェクトの内容や今後のスケジュール等について説明 ■ メンバー募集のため、庁内掲示板等での呼びかけ ■ 事務局で市の現状のとりまとめ、既存事業の棚卸しを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各指標や既存事業等について共有し、データ分析を実施 ■ データ分析から地域課題の洗い出し 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 前回整理した課題等を踏まえ、人口減少対策について検討 ■ 洗い出した課題等について調査するため、主観調査の設問内容等について調整 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検討した人口減少対策をプロジェクトメンバーで共有・意見交換（アイデアのブラッシュアップ） ■ 主観調査を実施し、市民の考えや意見を把握
ワークショップ等	キックオフミーティング	第1回ワークショップ	第2回ワークショップ	第3回ワークショップ

時期	12月	2024年1月	2月	3月
到達目標 (マイルストーン)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ワークショップの実施（事業アイデアの検討） ◎ 審査会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 対応策の具体化 ※令和6年度補正予算 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 対応策の具体化 ※令和6年度補正予算 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 具体化した事業について審議 ◎ 持続可能な検討体制の確立
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 審査会へ向けた調整（プレゼン資料の作成等） ■ 幹部職員等が審査員となる審査会を実施し、人口減少対策のアイデアについて審議 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 審査会で採択となったアイデアについて、プロジェクトメンバーと事業担当課が連携し、アイデアをブラッシュアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業担当課において、予算化を目指し、より詳細な企画立案を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業担当課より、予算要求へ向け、政策・財政会議へ人口減少対策にかかる事業を提出 ■ プロジェクトを来年度以降も継続するための体制について検討
ワークショップ等	第4回ワークショップ 審査会			政策・財政会議

STEP 2 客観的指標の分析による地域特性の見える化

(1) 出生に関する指標の特徴と考察



◆ 未婚率

・ 未婚率が高い（有配偶率が低い）
→ 市内に賑わいの場が少なく、出会いに結び付きにくいのではないかと考えられる。

◆ 有配偶出生率

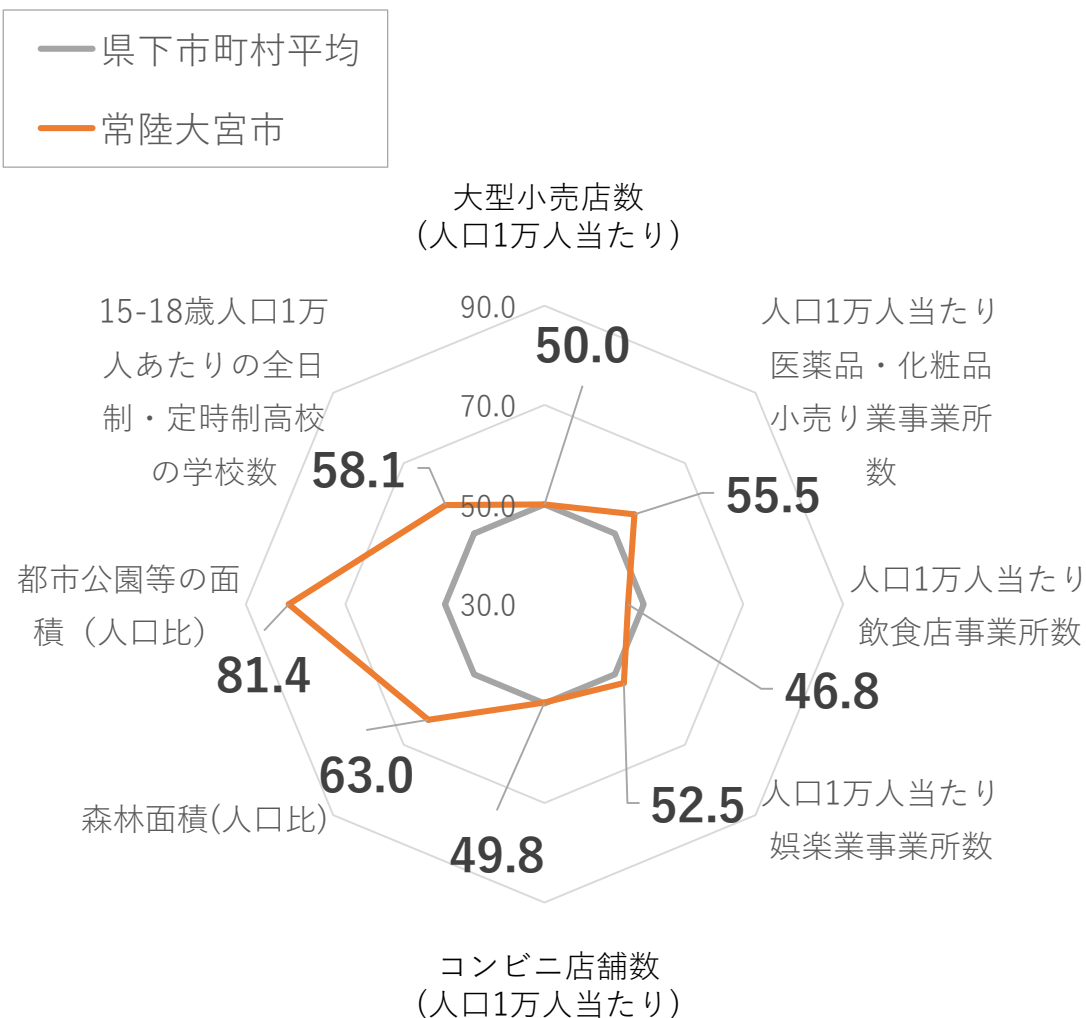
・ 県内ワースト 8 位
→ 未婚率が高く、出生率が低いことで、有配偶出生率が低い水準となっている

◆ 合計特殊出生率

・ 第 1 子の合計特殊出生率は県内ワースト 12 位
→ 第 1 子～第 3 子で全体的に出生率が低いと見られるため、まずは第 1 子の出産につなげていくことが必要だと考えられる。

STEP 2 客観的指標の分析による地域特性の見える化

(2) 地域の指標の特徴と考察



◆ 賑わい・生活環境

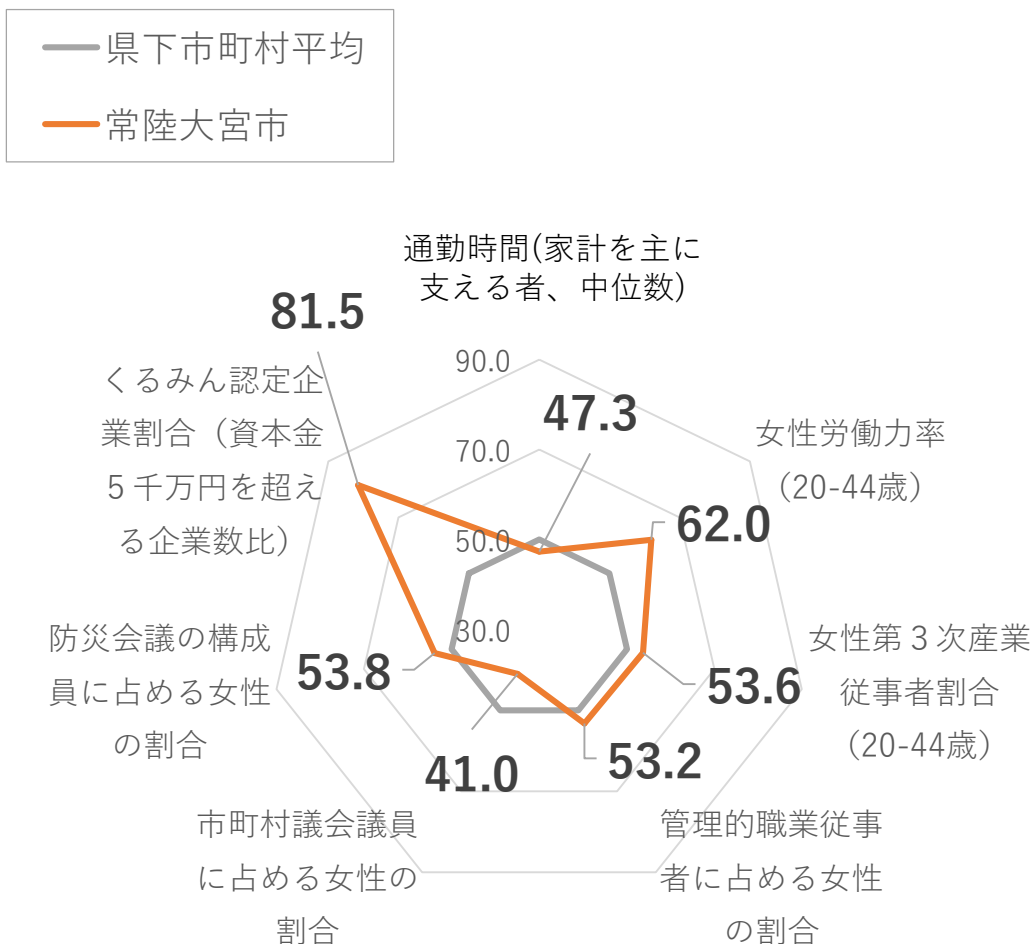
・ 医薬品や化粧品小売り事業所数は比較的多いが、**飲食店事業所数が少ない**
→賑わいの場が少ない要因の一つか。

・ 都市公園等の面積が県内2位の大きさ
→大きな都市公園を有しているが、市の魅力につながっていないため、この強みを生かす施策が必要ではないか。

・ 全日制、定時制高校の学校数が、人口に対して比較的多い
→**市内の高校に通う生徒に対するアプローチ**（高校生を対象とした施策）も効果的なのではないか。

STEP 2 客観的指標の分析による地域特性の見える化

(2) 地域の指標の特徴と考察



◆ 働き方・男女共同参画

- ・女性労働力率が県内7位
→働く女性が多いため、**出産・子育てと仕事を両立できる環境づくり**が必要。
- ・通勤時間が長い
→市外へ通勤している方が多いと考えられるため、市内における雇用環境の充実を図る取組も効果的ではないか。
- ・くるみん認定企業割合が県内1位
→この点についてPRしつつ、企業への働きかけを行うなど、子育て世代が働きやすい環境を充実させていくことが重要ではないか。

STEP 2 客観的指標の分析による地域特性の見える化

(3) 要因仮説の整理

未婚率が高いのは・・・

市内に飲食店や、若い世代が集まるイベント等の賑わいの場が少ないことが一つの要因となっているのではないか。

出生率が低いのは・・・

女性労働力率が高いことから、仕事が多忙であるため育児と両立できるかなどの不安を抱えているのではないか。



市民目線で検討！

◆ プロジェクトメンバーによる気づき（問題点）

- 整備中の常陸大宮駅周辺の活気が少ない
- 少子化等により、子供たちが十分にスポーツ（部活動等）に取り組みにくい環境
- 学校の長期休業時等における、学童施設を利用する際の毎日のお弁当作りが負担
- 活用されていない市有財産の活用（市民のために使えないか）
- グローバル化が進む現在でも、国際交流の機会や英語に触れる機会が不足

STEP 3 主観調査による地域特性の把握

(1) 主観調査の方法・内容

市政女性モニター員を対象とし、Web上でアンケート調査を実施
(モニター員：18歳以上で、かつ市内在住・在勤・在学の女性)

調査内容	調査結果
転入した理由、転出したい理由は何か	・ 転入した理由は「結婚のため」(37.5%)が最も多かった ・ 転出したい理由では「親世帯との同居のため」(37.5%)が多かった
どのような機会が出会いのきっかけになると思うか	「友人や知人の紹介」(30%)に次いで、「音楽等の共通の趣味を通じたもの」(22.3%)が多かった
子育て支援策として重要だと思うことは何か	「金銭的サポートや現物給付」(24.6%)に次いで「育児と仕事の両立を支える環境整備等」(23.3%)が多かった ※その他意見として、「出産育児による休業がキャリアに響かない制度」を望む声があった
人口減少対策の取組として重視すべきこと	子育て支援のほか、「魅力ある賑わいづくり」(16.3%)や「正規雇用の拡大等」(12.7%)が多かった

STEP 3 主観調査による地域特性の把握

(2) 既存の調査結果の活用

主観調査以外に、市総合計画や総合戦略の策定時に実施した市民アンケートの調査結果を活用し、市民のニーズや考えを洗い出した。

調査名	調査内容	調査結果
人口ビジョン／総合戦略に係る市民アンケート調査 ※令和元年度実施	結婚や出会いのために最も重要と考える支援	「夫婦がともに安定して働けるような雇用環境の整備」(29.9%)の割合が最も高かった
まちづくりに対するアンケート調査 ※令和2年度実施	子育てをされていて特に困ること、困ったことは何か	「子供を自由に遊ばせる場所が少ない」(28.0%)のほか経済的支援が少ない、経済的負担が大きい、育児と仕事の両立が難しいという回答が多かった
	市内にどのような施設や環境が充実したら良いと思うか(17歳)	「交通機関の整備」(52.9%)に次いで「友達同士で話したり遊んだりできる場所(49.6%)」、「祭りや行事、イベントなど」(33.9%)も多かった
	今後、どのような能力を身につけていきたいと考えているか(17歳)	「海外の人とコミュニケーションを深めるための能力」(51.2%)や「課題解決にICTを活用する情報処理能力」(24.8%)が多かった

STEP 3 主観調査による地域特性の把握

(3) 調査結果を踏まえた今後の検討方針

◆ 未婚率の高さの改善（結婚関連）

調査結果

- ・ 婚活イベント等だけでない「音楽等の共通の趣味を通じた出会い」も有効
- ・ 「雇用環境の整備」も結婚や出会いのために必要な要素

検討方針

- ・ 音楽やスポーツイベント等の開催や、飲食店等の創出につながる施策
- ・ 雇用の拡大を目指した施策

◆ 出生率の向上（出産・子育て関連）



調査結果

- ・ 子育て支援については、経済的負担の軽減を望む声が多い
- ・ 「仕事と育児の両立を図る支援」にも一定のニーズあり
- ・ 出産育児によってキャリアが左右されない制度を望む声あり

検討方針

- ・ すでに実施している各種子育て支援を継続していく
- ・ 仕事と育児を両立させるための支援体制の強化を図る施策
- ・ 各種支援のほか、職場環境については企業等へのアプローチが重要

STEP 4 地域の強み・課題の分析

	結婚関連	出産・子育て関連
地域住民の実態 	<ul style="list-style-type: none"> ・未婚率が高く、約半数が結婚していない ・通勤時間が長い（市外通勤か） ・雇用環境の充実を求めている ・若い世代の多くは市に魅力を感じていない（17歳のシビックプライドが低い） 	<ul style="list-style-type: none"> ・出産、子育てに対して経済的な負担を感じている ・仕事と育児の両立に対して不安を抱えている（放課後児童クラブへの登録児童数が多い＝共働き世帯が多い）
地域の資源や強み 	<ul style="list-style-type: none"> ・広い面積を持つ都市公園等の施設がある ・地域ごとにお祭りがある（賑わい） ・常陸大宮駅舎及び駅の周辺を整備中 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブへの登録児童数が多い →利用者の満足度をあげられないか ・子育て支援拠点数が多い ・くるみん認定企業数が多い
取り組むべき課題	<p><u>地域資源を活用した賑わいの創出</u></p> <p>（具体例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備中の常陸大宮駅周辺の活性化 ・若い世代が魅力を感じるイベント等の実施（市にある自然や施設を活用） 	<p><u>仕事と育児を両立させられる環境づくり</u></p> <p>（具体例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブにおける子育て支援を強化し、保護者の負担の軽減につなげる

STEP 5 対応策の検討

項目	アイデア名	アイデアの内容
<ul style="list-style-type: none"> ・結婚 ・転出入 	新時代の祭り創生プロジェクト	整備中である常陸大宮駅の周辺を活性化するため、駅周辺を会場とした新たな祭りを実施し、賑わいの創出や地域振興につなげる。
<ul style="list-style-type: none"> ・転出入 	プロスポーツ選手育成プロジェクト	プロスポーツ選手によるクラブチームを設立するなど、主に子供たちのためのスポーツ環境の充実を図るとともに、プロスポーツ選手の育成を目指す。
<ul style="list-style-type: none"> ・出産 ・子育て 	学童にお弁当届けます	学校の長期休業時等における、学童施設を利用する保護者の負担を軽減するため、必要に応じてお弁当を注文できる仕組みを構築する。
<ul style="list-style-type: none"> ・結婚 ・転出入 	市有財産活性化プロジェクト	活用できていない市有財産に対してトライアルサウンディングを実施することで、市有財産を有効活用し、賑わいの創出や市の魅力向上につなげる。
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て 	グローバルカフェ運営事業	国際交流の機会や、英語をはじめとする外国語に触れる機会を創出するため、英会話カフェや異文化交流イベントを実施する。

※取り組むべき課題のほか、プロジェクトメンバーが考える市の弱みを解決するためのアイデアも提案

STEP 6 対応策の実行

◆ 人口減少・少子化対策実行の流れ

ワークショップ

プロジェクトメンバーで人口減少対策を検討し、事業提案書（スライド資料等）を作成

審査会

事業提案書により、市長含む市幹部職員等へアイデアを提案→アイデアの採否を協議・決定

事業のブラッシュアップ

採択されたアイデアについて、提案者・事業担当課・事務局で事業化へ向けた意見交換会を実施

政策・財政会議

事業担当課にて新規事業の企画立案を行い、政策・財政会議へ調書を提出し事業について審議

予算要求・事業化(次年度～)

R 6 は 1 事業が予算化！

※他 3 事業は継続検討

地域アプローチによる取組を通して

(1) 取組の成果

◆ 部局横断的な検討体制の構築

- ・ 人口減少・少子化対策について全庁的に検討する組織を構築できた
- ・ 若手職員同士が部局を超えて議論できる場を創出できた

上司や部下といった関係ではなく、**フラット**な議論の場

◆ EBPMの考えに基づいた検討

- ・ 客観的データに基づいた政策立案について、実践的に学ぶことができた
- ・ 地域の弱みと強みを一緒に洗い出すことで、より効果的な施策の検討につながった
- ・ 既存事業についても、地域指標の分析等により、改善点を見つけることができた

(2) 今後の展望

◆ 地域アプローチによる取組の継続

- ・ 地域指標等の客観的データの分析を継続し、EBPMを定着させる
- ・ プロジェクト内容を見直しながら、検討体制の強化を図っていく

情報共有し、各部署でも取り組めるように！

◆ 人口減少・少子化対策の検討

- ・ 市民ニーズや地域の問題を的確に把握し、それらを解決できる施策を検討する
- ・ 既存の概念にとらわれず、時代に合わせた施策に取り組んでいく

◆ 各分野で連携した施策の実施

- ・ 一つの部署だけで単独に取り組むだけでなく、全庁的な連携を進める
- ・ あわせて、実施事業の効果検証を行うほか、既存事業の見直しにも注力していく

参考：プロジェクト（未来をつくる政策Labo）活動実績

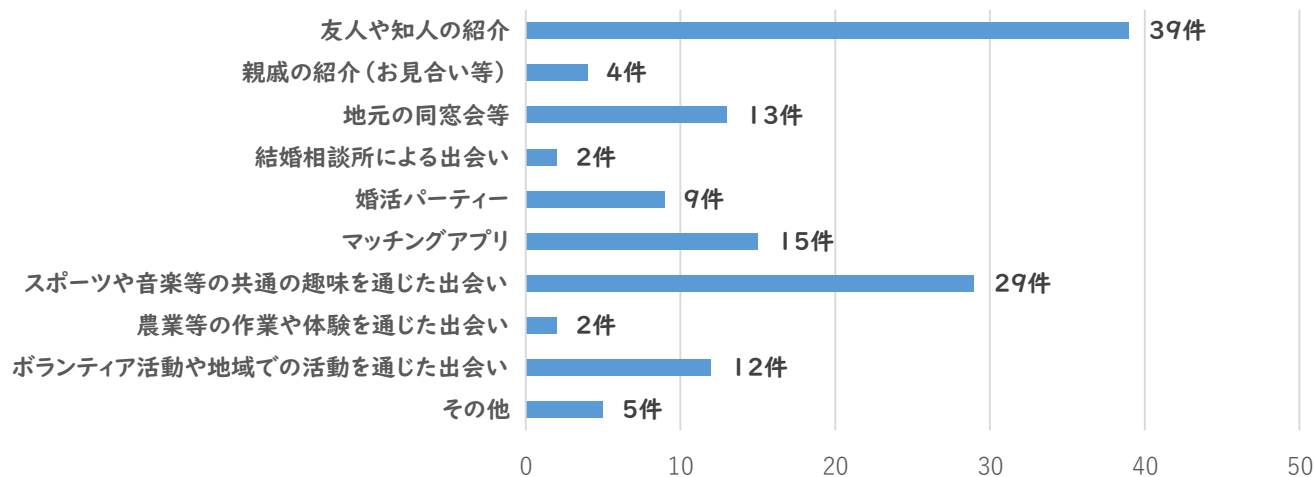
時 期	項 目	内 容
～7月	客観的指標等の分析（～8月）	地域指標のひな型を活用したデータ分析、既存事業の棚卸し
	プロジェクトへの参加意向調査	プロジェクト実施の周知も兼ねて、職員へ参加意向調査を実施
8月	キックオフミーティング	理事・部長級職員へプロジェクトについて説明 （事業概要の説明のほか、若手職員への呼びかけも依頼）
	プロジェクトメンバー募集	自薦によるメンバー募集を実施 （個人及びチームでの応募可→個人応募は事務局でチーム振り分け）
9月	第1回ワークショップ	各指標や既存事業等について共有し、データ分析・課題洗い出し
10月	第2回ワークショップ	課題を踏まえた人口減少・少子化対策のアイデアを検討(チーム内で意見交換)
	第1回審査会	令和6年度当初予算への計上を目指し、1件のアイデアを提案 （採択されたため、11月に事業のブラッシュアップを実施）
11月	主観調査の実施	市政女性モニター制度を活用し、人口減少に関する調査を実施
	第3回ワークショップ	検討したアイデアを全員で共有・意見交換し、アイデアをブラッシュアップ
	政策・財政会議	第1回審査会で採択となったアイデアが事業担当課より企画立案され、 事業内容や予算規模等について審議（事業化となったため、R6年度予算化）
12月	第4回ワークショップ	アイデアのブラッシュアップ・最終調整（事業提案書の作成等）
	第2回審査会	令和6年度補正予算への計上を目指し、4件のアイデアを提案 （2件が採択されたため、1～3月に事業のブラッシュアップを実施）
3月	第3回審査会	第2回審査会で継続審議となった1件のアイデアについて審議 （採択されたため、3月に事業のブラッシュアップを実施）

参考：客観的指標の分析による地域特性の見える化（出生に関連する特徴）

出生に関連する指標		出生に関連する指標の特徴 客観分析：県・全国値との比較／経年比較	地域の様々な指標を踏まえた 出生に関連する指標の要因仮説
有配偶率		<ul style="list-style-type: none"> 未婚率は男女ともに県平均より高い（有配偶率が低い） 未婚率（内閣官房「地域少子化・働き方指標」）→男：59.0%、女：42.1% 15歳以上有配偶率（令和2年国勢調査）→57.6%（茨城県：57.9%） 女性の有配偶率は低迷（特に30～44歳の有配偶率が低い） 	<ul style="list-style-type: none"> 飲食店事業所数が少なく、若い世代が集まるような「賑わいの場」が少なくなっているのではないか。 通勤時間が長いことから、仕事に要する時間が長くなってしまい、出会いを探す時間がないのではないか。
合計特殊出生率／有配偶出生率	一人目	<ul style="list-style-type: none"> 合計特殊出生率、有配偶出生率ともに低い水準 →合計特殊出生率順位：県内33位、有配偶出生率順位：県内37位 合計特殊出生率（H25～H29ベイズ推計値）→常陸大宮市1.34 出生率の第1子の内訳では、近隣市町の値を上回る（0.59で県内27位） ※1位：美浦村0.78 	<ul style="list-style-type: none"> 女性労働力率が高く、働く女性が多いことから、育児と仕事の両立についての不安を抱えているのではないか。 ※放課後児童クラブの利用登録児童数が多いことから、共働き世帯が多いことがわかる。 課税対象所得が低く、雇用が安定していないなどの問題から、出産・育児にかかる経済的な負担を感じているのではないか。 第1子出産の際は、近隣市町ではなく市内で出産する機会が多いのではないか。
	二人目	<ul style="list-style-type: none"> 第2子の内訳では、県内では中位の水準（0.52で県内22位） ※1位：つくばみらい市0.7 	<ul style="list-style-type: none"> 第1子よりも第2子出生率が高いのは、小児科医師数が多いほか地域子育て支援拠点数が多いなど、子育てしやすい環境を実感し、第2子出産の希望を叶える家庭が多いからではないか。 ※0-9歳児人口1万人当たり小児科医師数：県内7位 ※0-2歳人口1万人当たり地域子育て支援拠点数：県内5位
	三人以上	<ul style="list-style-type: none"> 第3子以降については低い水準（0.23で県内40位） ※1位：八千代町0.42 	<ul style="list-style-type: none"> 3世代同居率が低く、育児にかかる負担を分担できないことから、第3子出産をあきらめる家庭が多いのではないか。 ※八千代町：3世代同居率・第3子出生率が県内トップ
転出入	若年層	<p>【令和3年】</p> <ul style="list-style-type: none"> 15～34歳いずれの年代でも転出超過となっている （男性）平成30年と比較すると、15～19歳の年代で転出が増加 （女性）平成30年と比較すると、いずれの年代でも転出が減少 	<ul style="list-style-type: none"> 進学や就職による転出が多いと考えられる。 若い世代のシビックプライドが低いなど、市に魅力を感じないことから、転出超過が続いているのではないか。 若い世代の興味関心を引くような、魅力あるまちづくりが求められているのではないか。
	子育て世代	<p>【令和3年】</p> <ul style="list-style-type: none"> （男性）20～39歳の移動が多く、いずれの年代でも転出超過 （女性）20～39歳の移動が多く、そのうち35～39歳では転入超過 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果から、女性の多くは結婚を機に転入することが多いことがわかった。 女性は、子育て支援の充実さを知って転入してきている方が多いのではないか。

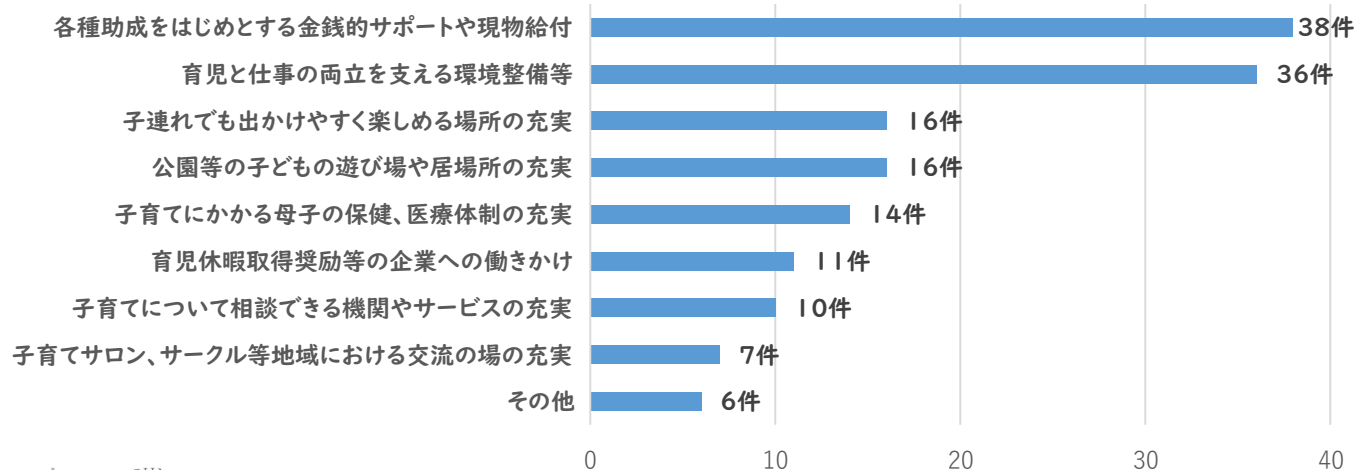
参考：主観調査の結果（市政女性モニターアンケート調査）

【出会いのきっかけとなるのはどのような機会か】



婚活パーティーよりも
趣味を通じた機会が
出会いにつながる
と考えている

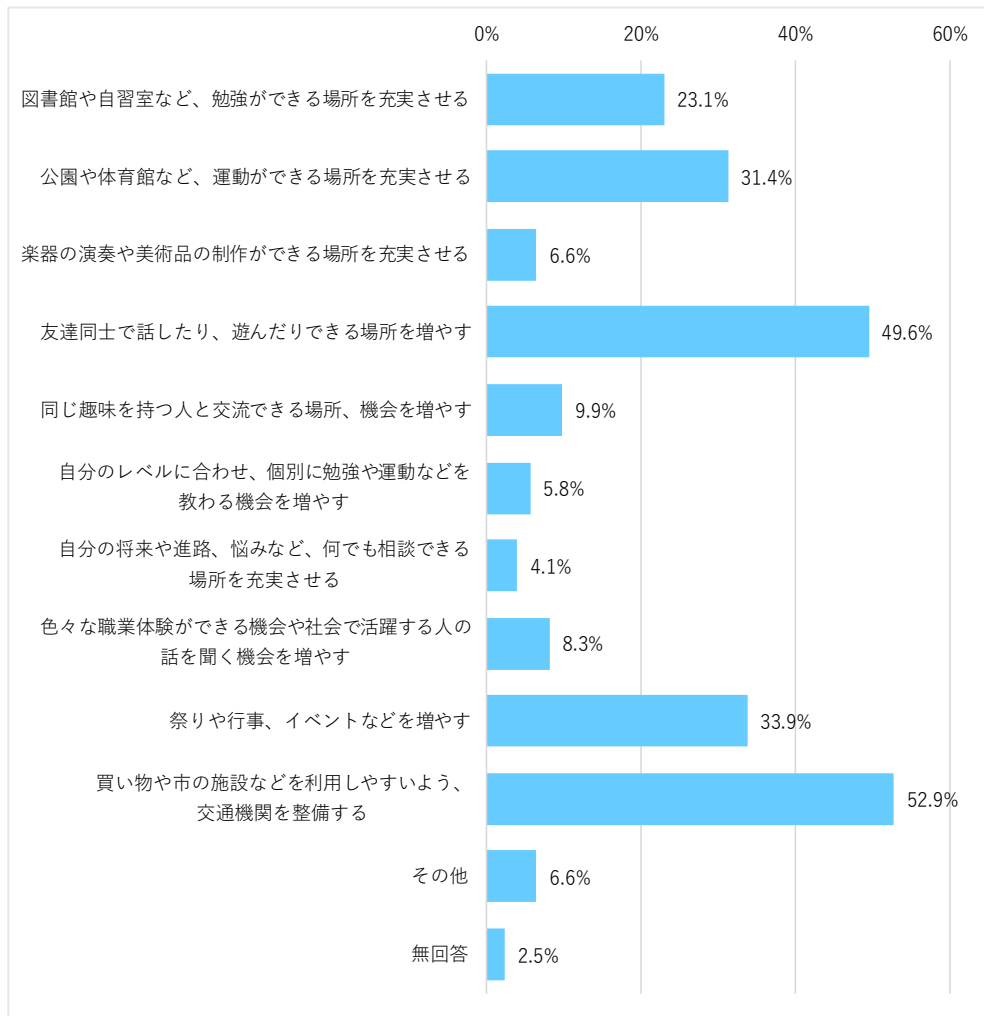
【出産・子育て支援策として重要だと思うことは何か】



**育児と仕事を
両立させたい**
という思いを抱えている

参考：既存調査の結果（R2まちづくりに対するアンケート）

【市内にどのような施設や環境が充実したら良いと思うか】



【今後、どのような能力を身につけていきたいと考えているか】

